

北信越ミニバスケットボールコミッショナー講習会報告

JBA 技術委員会 ユース育成部

JBA マンツーマン推進プロジェクト 指導部

日本ミニバスケットボール連盟 普及技術委員長

牧野 広良

新潟市ミニバスケットボール連盟

コミッショナー委員長

本宮 善就

1. 第49回全国ミニバスケットボール大会まとめ

(1) 赤旗（警告） 93回（1試合平均=0.64 チーム平均=0.97回/3試合）

①赤旗（警告）なし/3試合=北海道、岩手、福島、長野、宮崎、沖縄【6道県】

②赤旗（警告）1回/3試合=青森・茨城・栃木・神奈川・山梨・富山・福井

京都・島根・岡山・徳島・香川・高知【13府県】

⇒0~1回の都道府県が19もあり、ほぼ推進が浸透しているといえる。特に黄色旗の推進の場面が多くあり、日増しに理解も深まっていった。

③テクニカルファール 15回

⇒赤旗が4回以上の都道府県が6つあることや、ブロックによって赤旗の偏りがあることなどを踏まえると、講習会后における伝達の工夫が必要という課題点も残った。

④ブロック別赤旗

北海道ブロック=0回

四国ブロック=5回・・・1県あたり 0.625

北信越ブロック=7回・・・1県あたり 0.7

東北ブロック=9回・・・1県あたり 0.75

近畿ブロック=11回・・・1県あたり 0.92

九州ブロック=15回・・・1県あたり 0.94

関東ブロック=18回・・・1県あたり 1.13

中国ブロック=14回・・・1県あたり 1.4

東海ブロック=14回・・・1県あたり 1.75

(2) リスペクトキャンペーン

2件において事例の報告があった。内1件は指導に値する内容だった為事後指導ではあるものの該当ブロック長の指導により該当チームご指導頂き、ミニバスケットボールの精神に賛同いただいた。

2. マンツーマン推進の目的

(1) 日本の現状分析から考えた目標

- ①素晴らしい運動能力を備え、動ける選手を作る。
- ②ディフェンス意識が高く国際トップレベルの選手を止める選手を作る。
- ③アンダーサイズでも1対1が素晴らしい選手の育成。

(2) 育成世代において大切にすること

- ①1対1の競争する楽しみを持たせること。
- ②ゲームを楽しむことができるプレーヤーを作ること。
- ③創造力を持ったプレーヤーを作ること。
- ④判断能力・認知能力の個の成長

3. マンツーマン推進の根幹

(1) プレーヤーズファーストを尊重。目先の勝利にとらわれず長期的な視点に立った指導の推進。

(2) マンツーマンディレクター・マンツーマンコミッショナー制を導入し、マンツーマンの趣旨・導入目的を各地区に浸透させ、全国で一貫した基準でのマンツーマンの推進を行う。

(3) 「選手の将来」を考えその年代でやるべき課題をこなしながら勝利を目指す。

4. マンツーマンコミッショナーの心構え

(1) 目的の把握

マンツーマンコミッショナーの設置の主な目的は、試合における違反行為を取り締まることだけではなく、マンツーマンに対する理解を推進し円滑に試合運営を行い、より子供たちがバスケットボールを楽しめる環境を構築することにある。

(2) 任務の遂行

ゲーム中はコミッショナーがマンツーマンを監督・管理する。マンツーマン基準規則違反の判断はコミッショナーが行う。

(3) コミッショナーの役割

- ①マンツーマン導入の必要性を理解し広める。
- ②マンツーマンでディフェンス（相手チームの決まった選手を守る戦術）とゾーンディフェンス（ディフェンスの戦術として、各選手がコート上の決められたエリアをカバーする戦術）の違いを理解した上で、正しいマンツーマン推進が行われるように努める。
- ③フェアプレーのチェック（意図的な不正行為を許さない。）をする。
- ④ゾーンディフェンスでないところのチームの戦術には関与しない。
- ⑤明らかな技術不足における選手を罰しない。
- ⑥基準規則に則した上で、「FEEL THE GAME」も心掛ける。

5. 2018年度コミッショナーの試合中のポイント

(1) 具体的なポイント

- ①伝達の円滑性を保つ
 - あ) アクション
 - い) わかりやすく簡潔な説明
 - う) 推進につながるコミュニケーション
- ②根拠の裏付けを持つ
 - あ) 振る勇氣・振らない勇氣
- ③タイムリーな判定を心掛ける
 - あ) 最初の事象を見逃さない
 - い) 黄色旗⇒赤旗のタイミング
- ④基準規則の熟知徹底する
 - あ) ヘルプか否か・トラップか否か
 - い) プレーヤー・ベンチの意思
 - う) 毅然たる態度と平等性
- ⑤審判との連携を密にする

6. 基準規則を軸とした統一した判定

- (1) マッチアップ・・・誰とマッチアップしているか（ ）でなければならない。またそれが（ ）にわかること。
- (2) プレスディフェンス・・・ローテーション後の（ ）を確実に行う。
- (3) オンボールディフェンス・・・マッチアップエリアにおいて距離は最大（ ）M。
- (4) オフボールディフェンス・・・制限区域以外のオフボールのポジションでトラップをすることは違反である。
- (5) ヘルプローション・・・オンボールが抜かれた場合とオフボールのオフense側プレーヤーが（ ）へカットし抜かれた場合はヘルプできる。
- (6) スイッチ・・・オフボールの（ ）に対するスイッチは違反である。
- (7) トラップ・・・ボールを（ ）できる距離における数的優位な守り方。

※トラップが仕掛けられる3つの場面

- I. （ ）が行われている時、または終わった時。
- II. パスが（ ）にある間に移動しトラップが成立する時。
- III. 移動が容易に行える距離にある時。ボールマンと（ ）の距離の目安が2~3mの時。

7. ポイントとなる事象

- (1) トラップと2人で守ること（ダブルチーム）の違い
- (2) 現象が改善されなければ、黄色旗は赤旗に移行する。
- (3) 黄色旗をあげずに最初から赤旗のケース
 - ①悪質なもの（明らかなゾーンプレスなど）

※時間的な判断（試合終了間際等）で赤旗が必要な緊迫した場面では、黄色旗の時間を短くして赤旗になったり、最初から赤旗になるケースもある。
- (4) アイソレーションに対して基準規則に則りディフェンスが対応している時の考え方。
- (5) 県大会・ブロック大会・全国大会における技術不足のケース
- (6) コミッショナーに関するクレームは審判と連携しテクニカルファールの処置で。更なるものは本部対応。
- (7) マッチアップを見ないケース（首振りも含め）は、イリーガルである。その時シュートやカットヘルプの状況がおきているかどうか見極めることが大切。
- (8) 黄色旗・赤旗のあげる基準に、同じ現象が違う現象か。同じ選手か違う選手かということはふくまれない。

8. 基準規則の変更（2018年4月1日～）

(1) オフボールディフェンス

全てのポジションで、ボールを持っていないオフense側プレーヤーをトラップすることは違反である。ただし、制限区域内において、予測に基づいてボールを持っていないオフense側プレーヤーをトラップすることは許される。また、スローイン時（サイド・エンド両方）においてのみ、スローインをするプレーヤーにマッチアップするディフェンス側プレーヤーが、1.5m以内のマッチアップの距離制限を超えて制限区域内のオフボールプレーヤーをトラップすることは許される。

(2) マンツーマンコミッショナーの任務

①マンツーマン基準規則違反で赤旗（警告）の旗があげられた時は、コミッショナーが、違反對象となった攻防のボールコントロールが変わった時およびボールがデッドになった時にゲームクロックを止めて、違反行為に対する処置を行う。審判およびオフィシャルを行う児童・生徒が判断するものではなく、コミッショナーが判断して行う処置である。

②赤色の旗があげられた場合、コミッショナーはボールの保持が変わった時およびボールがデッドになった時に速やかにホイッスル・ブザー等で審判に知らせる。オフィシャルはホイッスル・ブザー等と同時にゲー

ムクロックを止める。ゲームを止めた後は赤旗に関する処置を行う。

◆ボールのチームコントロールが変わる時（ボールの保持が変わる時）

- ・ オフェンス側自身のミスやディフェンス側がスティールすることにより、ディフェンス側がボールをコントロールした時。
- ・ ディフェンスリバウンドをコントロールした時。
- ・ フィールドゴール成功時。
- ・ ファール・バイオレーションが起こった時。

◆ボールは次の時にデッドになる（競技規則第10条ボールのステータス）

- ・ フィールドゴールあるいはフリースローが成功した時
- ・ ボールがライブで審判が笛を鳴らした時。
- ・ フリースローでボールがバスケットに入らないことが明らかになり、その後—
 - フリースローが続く時
 - 別の罰則（フリースローやボールポゼッション）がある時
- ・ ピリオド終了のゲームクロックのブザーが鳴った時。
- ・ チームがボールをコントロールしている間にショットクロックのブザーが鳴った時。

【補足】ただし、ショットクロックのブザーが誤って鳴った時は除く。

- ・ ショットされたボールが空中にある間に次のいずれかが起こった後でどちらかのチームのプレーヤーがボールに触れた時—
 - 審判が笛を鳴らした後
 - ピリオド終了のゲームクロックのブザーが鳴った後
 - ショットクロックのブザーが鳴った後

(具体的な対応)

- ・ 防御側がボールを獲得した時は、ゲームを止める。
- ・ 攻撃側が得点を取った時は、得点を認めゲームを止める。
- ・ 攻撃側がオフェンスリバウンドを取った時は、まだボール保持があり得点を取る機会が継続しているためゲームは止めない。
- ・ 審判が笛を鳴らした時は、ゲームを止める。
- ・ プレーが止まるまでに起きたことは全て記録する。

9. U15 と U12 におけるマンツーマンディフェンス基準規則・運用面の違いについて

- (1) ゲーム終了間際（第 4 ピリオド・延長時限）残り 2 分を切ったからの違反行為（赤旗・警告）について

U15⇒1 回目の警告でもテクニカルファールの対象とする。

U12⇒適用しない。

- (2) 2 回目の赤旗があげられた場合

赤旗があがり、それが同じチームの 2 回目以降の違反行為の場合は、最初にゲームクロックが止まった際、主審は TO 席の前に両チームのコーチを集め、コミッショナーからの説明後に当該コーチに対しテクニカルファールを宣する。

U15⇒相手チームに 1 個のフリースローとスローインを与える。

U12⇒相手チームに 2 個のフリースローとスローインを与える。

- (3) 他の罰則によるフリースローがある場合

他の行為による罰則と基準規則違反による罰則（テクニカルファール）が重なった場合は、コミッショナーの説明を行った後、他の罰則の処置を行い最後に基準規則違反によるテクニカルファールの罰則を適用する。

《注意》

U15⇒基準規則違反によるテクニカルファールの罰則が適用される前に新たに別のテクニカルファールが宣せられた場合など、罰則の重さが等しい場合は競技規則第 42 条『特別な処置をする場合』に従い、処置をする。

U12⇒「友情・ほほえみ・フェアプレーの精神」により、全て罰則を平等に適用することが望ましいとの考えから、競技規則第 42 条を適用せずに起きた順序に従って全てのフリースローを行う。

それぞれの罰則に含まれているスローインは取り消され、最後の処置（基準規則違反のテクニカルファール）の罰則に含まれるスローインでゲームを再開する。

- (4) 試合の勝利を意識しての意図的なイリーガルディフェンス

U15⇒1 回目の警告でテクニカルファールとなる。

U12⇒適用しない。

- (5) 基準規則違反によるテクニカルファールの場合

U15⇒コーチ自身のファールとして記録し、チームファールに数えない。

（スコアシートにはコーチの欄に「C」と記録する。

U12⇒「T」と記録する。

- (6) コーチ自身にテクニカルファールが 2 回記録された場合

U15⇒コーチは失格・退場になる。（競技規則第 36 条）

U12⇒退場とならない。

(7) 各ピリオド（延長時限を含む）の終了間際に違反行為が生じ、コミッショナーの
旗（赤旗）があがり、そのままゲームクロックが止まらずに各ピリオドが終了
した
場合

その警告および罰則は全て有効とする。

U15⇒ただし、トーナメント戦の第4ピリオドまたは各延長時限の終了時において、テクニカルファールの罰則によるフリースローを行っても勝敗に影響がない場合は、テクニカルファールを適用しない。

U12⇒上記のただし・・・以降は、適用しない。

<勝敗に影響がない場合>

- ・第4ピリオドまたは各延長時限の終了時において、得点の多いチームにフリースローが与えられる場合
- ・第4ピリオドまたは各延長時限の終了時において、得点の少ないチームにフリースローが与えられるが、得点差が2点以上離れている場合

(8) ゲーム終了間際（第4ピリオド・延長時限）残り2分を切ったからの違反行為（赤旗・警告）について

U15⇒1回目の警告でもテクニカルファールの対象とする。

U12⇒適用しない。

(9) トラップについて

（「マンツーマンディフェンスの基準規則 2.プレスディフェンスおよび 4.オフボールディフェンス」に関する補足）

U15⇒下記①～③を適用せず、全ての場面においてボール保持している選手へのトラップは許される。

U12⇒ボールを持っている選手にトラップが仕掛けられる場面は次のとおりとする。

- ①ドリブルが行われている時、またはドリブルが終わった時
- ②パスが空中にある間に移動できる距離で、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができる時
- ③移動が容易に行える距離にある時（自分のマークマンとボールマンの距離の目安：2～3m）

(10) 予測に基づくプレーについて

U15⇒マンツーマンディフェンスを行っている前提において、予測に基づくプレーとコミッショナーが判断した場合、基準規則違反とは見なさない。

※予測に基づくとは、予測の根拠となる動きがあることを示す。

※マークマンを意識せずにエリアを守ることはマンツーマンの趣旨に

反するため許されない。

U12⇒本項は適用しないが、制限区域内のみで予測に基づいてボールを持っていないオフense側プレイヤーをトラップすることは許される。